



白河市 議会だより

2026.2.2

12月定例会

VOL.82

議会報告会・意見交換会



東地域活性化協議会

市議会初の試みとして、市内4地域の地域活性化協議会の皆さまと「議会報告会・意見交換会」を実施し、貴重な意見をいただきました。この会議は「市民の皆さまと共に、あるべき未来を問い続け、本市の課題を解決し、社会の変革に対応し先駆ける」ものでした。詳しくは14ページをご覧ください。

〈令和7年12月定例会〉

目次

・12月定例会・1月臨時会	2 p
・請願・陳情・人事案件・採決	3～4 p
・各常任委員会の審査	5～6 p
・行政視察リポート	7～8 p
・一般質問	9～13 p
・地域活性化協議会との「議会報告会・意見交換会」	14 p
・白河市町内会連合会と市議会との意見交換会/ 議員スナップショット	15 p
・3月定例会の予定/小学生が議会を傍聴/ 勤労感謝の日訪問/編集後記	16 p

12月定例会

令和7年12月定例会が、12月3日から16日までの14日間の会期で開かれました。開会日に鈴木和夫市長より議案における提案理由の説明がなされ、一般質問では15名の議員がそれぞれ市の考えを質しました。

市長提出議案は40件で、令和7年度補正予算、複合施設関連の条例制定、専決処分2件、人事案件3件などを審議し、いずれも原案のとおり可決または同意されました。

今号では定例会の概要と注目する主な事業（2頁）、請願・陳情・人事案件・各議案の採決結果（3～4頁）、各常任委員会での審議内容と委員会視察レポート（5～8頁）を主にお知らせします。

議案ピックアップ

- ◆市長提出議案……40件
（うち人事案件……3件は4頁）
- ◆請願・陳情 ……6件
（請願3件、陳情3件）
- ◆議員提出議案
（意見書案）……5件

全ての議案の審査結果は市議会ホームページをご覧ください。



《 12月定例会において補正された一般会計予算の総額 》

6億9,735万8千円

・主な事業内訳・

◆物価高対応子育て応援事業 1億6,163万3千円

物価高の影響を受ける子育て世帯を支援するため、こども一人あたり2万円を給付する（財源は国100%、事務費は163万3千円）

◆職員給与関係費等 9,629万6千円

◆会計年度任用職員関係費 3,763万3千円

福島県人事委員会勧告に準じ、特別職、議員、一般職および会計年度任用職員の給与を改定するための経費

◆ふるさと応援事業 9,999万8千円

上半期のふるさと納税の寄付が好調であったため、寄付者への返礼等に係る経費を追加するため



ふるさと納税返礼品

1月臨時会

令和8年1月臨時議会が、1月15日の1日間の会期で開かれ、一般会計補正予算、下水道事業会計補正予算の2件を審議し、いずれも原案のとおり全会一致で可決されました。

・主な事業内訳・

◆物価高対応子育て応援事業 4,000万円

物価高の影響を受ける子育て世帯を支援するため、国で定めたこども一人あたり2万円に、市独自に5千円を上乗せして給付する。

給付は2月10日（児童手当の支給日と同日）※申請の必要な方は申請後の支給となります。

◆物価高騰対策生活支援商品券事業 4億7,649万8千円

エネルギー・食料品価格等の物価高騰に対応するため、小売店や飲食店等で使用できる商品券を全市民に配布する。

市民一人あたり : 商品券8,000円

請願・陳情・意見書 & 人事案件・採決

提出された請願・陳情は、議会運営委員会等で審査後、本会議で採決します。採択されたものは市議会の意見書として関係機関や国へ提出します。

請願第7号 地域の医師不足解消を求める請願書



〈提出者〉 福島県民主医療機関連合会 会長 北條 徹

〈紹介議員〉 深谷 弘

〈要 旨〉 医師少数県とされる本県はもとより、医師多数県の中でも中山間地域では医師が不足し、地域医療は崩壊の危機にある。政府は医師の配置を重視した医師偏在対策を打ち出したが、医師の人権や健康を守りつつ働き方の多様化を踏まえて医師需給推計を見直し、医師偏在指標に基づいた医師偏在対策を改めること、また、医学部定員を増員することを関係機関に要望する。

請願第8号 防衛省「まるわかり!日本の防衛はじめての防衛白書」の小学校への直接送付をやめることを求める意見書の提出について



〈提出者〉 福島県県南農民組合 組合長 大竹利男

〈紹介議員〉 深谷 弘

〈要 旨〉 防衛省が作成した冊子が7月時点で全国の小学校に配布され、意見が分かれる安全保障政策などについて政府の見解を一方向的に教え込む内容となっていることから、小学校への直接送付をやめるよう防衛省へ要望する。

〈議会運営委員会での審査経過〉

採択すべきとの意見や、配布目的等について調査が必要なため継続審査とする意見、送付しているだけであり問題ないため不採択とする意見があり、採決の結果、継続審査、採択とも賛成少数となり、不採択とすべきものと決しました。

請願第9号 米の安定供給等を求める意見書の提出について



〈提出者〉 福島県県南農民組合 組合長 大竹利男

〈紹介議員〉 深谷 弘

〈要 旨〉 国が米不足を認めて米の増産に踏み切ることを表明したが、新政権になり、増産から一転し需要に応じた生産が基本との考えを示した。消費者は安心して日本の米が食べ続けられる、農家は安心して米を作り続けられる政策が求められるため、米の増産策を進め、十分な備蓄を確保すること、農産物の価格補償・所得保障政策を確立することを関係機関に対して要望する。

〈議会運営委員会での審査経過〉

増産策は米価や生産者の収入が不安定となり米農家の担い手不足が一層進む懸念があるため不採択とする意見がありましたが、採決の結果、賛成多数で採択とすべきものと決しました。

陳情第2号 物価上昇に見合う年金引き上げを求める陳情書



〈提出者〉 全日本年金者組合福島県本部 執行委員長 佐藤征司

〈要 旨〉 年金額改定は3年連続でマクロ経済スライドを適用し、物価との関係で見れば実質的には減額となっており、公的年金が収入の全てである多くの高齢者世帯では医療費や食費を削り、また、働かざるを得ない高齢者が増加しているため、物価上昇に見合う老齢基礎年金等の支給額の改善をすることを関係機関に要望する。

陳情第3号

「院所・事業所の継続とケア労働者が働き続けられる環境整備のため、診療報酬・介護報酬など公定価格の引上げを求める意見書」の提出について



〈提出者〉 白河地方労働組合総連合 議長 近藤芳文

〈要 旨〉 物価高騰が中小企業や小規模事業所に打撃を与える中、医療、介護、福祉、保育などの現場では、低水準に抑え込まれた賃金が人手不足を加速させ、現場の維持にも支障を来し、事業所の倒産などにつながっている。ケア労働者の賃金は国が定めた基準を基に算定された公定価格に準拠しているため、診療報酬や介護報酬などの公定価格について、物価高騰や人件費増を賄うことができる水準までだちに引き上げることを関係機関に対して要望する。

陳情第4号

「最低賃金を引き上げやすい環境整備のために、中小企業・小規模事業者支援の拡充を求める意見書」の提出について



〈提出者〉 白河地方労働組合総連合 議長 近藤芳文

〈要 旨〉 福島県の最低賃金は、令和8年1月1日から時間額1,033円となり過去に例を見ない引上げとなる一方で、県内の中小企業や小規模事業者はエネルギー、原材料価格の高騰等により非常に厳しい状況にあるため、政府によるそれら事業者への支援策を拡充強化すること、社会保険料事業主負担分の減免や給付型支援を実施することを関係機関に要望する。

請願第7、9号、陳情第2～4号については「意見書第5～9号」として関係機関に提出しました。

人事案件



○議案第149号 白河市教育委員会委員の任命について

白河市教育委員会委員

瀧澤 織絵（東釜子・新任）

任期 4年

令和7年12月23日から

令和11年12月22日

○議案第150号 白河市公平委員会委員の選任について

白河市公平委員会委員

宮本 多可夫（旭町・再任）

任期 4年

令和7年12月26日から

令和11年12月25日

○議案第151号 小田川財産区管理委員会委員の選任について

小田川財産区管理委員会委員

菊地 忠治（萱根・新任）

任期 3か月（前任者の残任期間）

令和7年12月16日から

令和8年3月31日

本会議の採決

（賛否がわかれたもののみ記載）

議案名 ※○は賛成 ●は反対 ※議長（石名国光）は採決に加わらない	永山均	遠藤公彦	植村美洋	大木絵理	吉見優一郎	鈴木裕哉	高畠裕	佐川琴次	戸倉宏一	根本建一	室井伸一	緑川撰生	柴原隆夫	菅原修一	北野唯道	水野谷正則	佐川京子	大花務	高橋光雄	大竹功一	筒井孝充	深谷弘	議決結果
議案第140号 白河市議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	可決 （賛成多数）
議案第141号 白河市長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	可決 （賛成多数）
議案第144号 令和7年度白河市一般会計補正予算（第5号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	可決 （賛成多数）
請願第8号 防衛省「まるわかり！日本の防衛はじめての防衛白書」の小学校への直接送付をやめることを求める意見書の提出について	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	○	●	○	不採択 （賛成少数）
請願第9号 米の安定供給等を求める意見書の提出について	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	採択 （賛成多数）
意見書案第6号 米の安定供給等を求める意見書	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決 （賛成多数）

◎議案第112号～139、142、143号、145～151号、請願第7号、陳情第2～4号については、いずれも全会一致で可決、同意または採択しました。

◎意見書案第5号、7～9号については、いずれも全会一致で可決しました。

総務 常任委員会

白河市ひと・まち・みらい創造ステーション(複合施設)条例を制定

議案第112号 白河市ひと・まち・みらい創造ステーション条例のほか、議案13件が付託され、いずれも原案のとおり可決されました。

● 議案第112号 白河市ひと・まち・みらい創造ステーション条例第15条「キャリアサポートステーションしらかわ」について

Q | キャリアサポートステーションしらかわの具体的な事業のイメージは？

A | 結婚や出産、子育て等によるブランクがあり、再就職に不安がある女性を対象に交流の場の提供と就業支援を行うものです。主に、3つを想定しており、①気軽に立ち寄れるコミュニティスペースを設ける。②個別就労相談や企業と連携して求人情報の紹介等を行う。③企業見学バスツアーや仕事体験のインターシップ、女性向けセミナーの開催等を展開する予定。



女性向けセミナー

● 議案第134号 令和7年度白河市一般会計補正予算（第4号）

Q | 『来て「しらかわ」住宅取得支援事業補助金過年度分返還金』について交付要件を満たさなくなった理由と交付した補助額は？

A | 返還された方は年配の方での、県外の施設へ転出したことで、補助交付要件である3年以上継続して定住することを満たさなくなったことによる返還金である。また、補助額については、県外からの転入で、県と市からそれぞれ60万円の補助金が交付されていた。

市民産業 常任委員会

白河トマト産地持続化緊急対策事業補助金の予算計上

議案第119号 白河市住民基本台帳カード利用条件を廃止する条例のほか、議案8件が付託され、いずれも原案のとおり可決されました。

● 議案第133号 しらかわ観光ステーションの指定管理者の指定について

Q | 指定管理の期間が1年である理由について

A | 観光ステーションは観光案内に重きを置いた施設であることから、収益の観点等から今後の方向性を検討するため1年とした。



しらかわ観光ステーション

● 議案第134号 令和7年度白河市一般会計補正予算（第4号）

Q | 農業振興対策事業の「白河トマト産地持続化緊急対策事業補助金」の予算計上の経緯について

A | 市内のトマト農家56戸のうち49戸（87%）の農家が被害にあっており、被害が市内全域に渡るため、予算を計上した。

Q | 補助金の算定根拠について

A | 市内トマト栽培面積に補助額上限10アール当たり20万円をかけて算出している。

複合施設内にキッズプラザを設置するため条例を制定

議案第117号 白河市認定こども園条例のほか、議案12件が付託され、いずれも原案のとおり可決されました。

● 議案第116号 白河市キッズプラザ条例

Q | 施設利用対象年齢の条文の記載が無い理由は

A | 別途、規則で定めるため。

Q | 事前登録が必要である理由は

A | 利用者に安心してご利用いただくため。



複合施設イメージパース
(キッズプラザ)

● 議案第120号 白河市保健センター条例の一部を改正する条例

Q | 保健センターが統合された後、表郷、大信、東の旧保健センターの利活用を検討する際、保健事業以外での利活用が可能か。

A | 保健事業以外での利活用が可能であり、利活用の方針については、各地域で検討する。

南湖公園の景観の維持管理に努めている

議案第138号 白河市下水道事業会計補正予算（第2号）のほか、議案6件が付託され、いずれも原案のとおり可決されました。

● 議案第124号 白河市中心市街地市民交流センター及び旧脇本陣柳屋旅館建造物群の指定管理者の指定について

Q | 指定期間が1年である理由について

A | マイタウン白河4階の子供の屋内遊び場「わんぱーく」の機能が、令和9年に開設される複合施設へ移転集約されることから、今回は指定期間を1年間とし、その間に新たな運用形態を定めたうえで、次期よりあらためて複数年度の指定を検討する。



屋内遊び場「わんぱーく」

● 議案第134号 白河市一般会計補正予算（第4号）

Q | 南湖維持管理事業の修繕費の内容は

A | マツの倒伏を防ぐための剪定や、南湖へ流入する排水の暗渠管内を阻害する根の除去費用である。

総務 常任委員会

所管事務調査の一環として11月5日から7日まで、山形県長井市、西川町及び寒河江市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉

委員長：大花 務 副委員長：佐川 琴次
委員：吉見優一郎 委員：緑川 摂生
委員：高橋 光雄

山形県長井市

【国の交付金と内閣府地方創生人材を活用した「スマートシティ長井事業」】

外部知見を取り入れた組織体制を構築し、地域通貨「ながいコイン」、無人スマートストア、GPSによる児童見守り、有害鳥獣対策・河川監視など多岐にわたり取り組み、公共交通では、利用データを数値化・分析し、ルートや停留所の最適化を図り、本市の施策推進において極めて参考になるものでした。



山形県西川町

【関係人口創出をはじめとする“つなぐ”施策】

国の制度やデジタル住民票などを駆使し、若者や富裕層をターゲットとした戦略を展開しており、その結果、関係人口は50倍以上に増加し、予算規模も1.6倍へ拡大しました。DX推進の一方で、根底にある「地域の寛容性」や「人の繋がり」を重視する熱意に触れ、明確な戦略と実行力を持って町全体を活性化させる手法は、議員活動において多大な示唆を与えるものでした。



山形県寒河江市

【旧田代小学校を活用した「学びの里TASSHO」】

地元住民によるNPO法人が、施設を管理・運営し、地産地消の料理提供や体験事業等により黒字経営を継続しています。過疎化が進む中で地域を守ろうとする住民の熱い情熱と、廃校がコミュニティ拠点として機能する重要性を強く感じる一方で、現場では後継者不足等の課題もあり、本市にも共通する切実な問題であると認識しました。住民の「地域愛」が地域存続の鍵であることを学び、本市の地域づくりにおいても非常に有益でありました。

市民産業 常任委員会

所管事務調査の一環として、11月10日から12日まで、兵庫県丹波篠山市、豊岡市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉

委員長：菅原 修一 副委員長：遠藤 公彦
委員：植村 美洋 委員：鈴木 裕哉
委員：根本 建一 委員：室井 伸一

兵庫県丹波篠山市

【丹波篠山観光まちづくり戦略】

観光客が「黒枝豆まつり」や城下町エリアに集中することや、滞在時間が短いことなどが課題であり、二次交通の提供や宿泊施設の整備、インバウンド対策、効果的な情報発信などに取り組んでいます。これらの取り組みは、本市の観光の振興において大いに参考になりました。



兵庫県丹波篠山市 (株)NOTE

【古民家等の歴史的建造物を活用した観光施設の運営】

古民家や蔵などを店舗や滞在型宿泊施設として再生・活用し、人を呼び込み賑わいを戻す取り組みを行っています。これらの取り組みは、本市の古い町並みや暮らし・文化を生かしながら、観光や商工業の振興を考えるうえで非常に参考になり、今後進められる「大木家住宅」事業についても大いに期待するものです。



兵庫県豊岡市 たじま農業協同組合

【豊岡市と連携して行っている農業の取り組み】

環境への負荷軽減と安全で安心な農産物の安定供給を図るため、農薬や化学肥料に頼らず、お米とそこに生息する生物を同時に育む「コウノトリを育む農法」を全国に先駆け、生産者、農協、行政、販売先の四位一体で取り組み、市内すべての学校給食に「コウノトリを育むお米」が提供されています。これらの取り組み、及び実現するまでの経過は非常に感銘を受けるものであり、本市の農業施策において大変参考になりました。

教育福祉 常任委員会

所管事務調査の一環として令和7年11月12日から14日まで、石川県白山市及び小松市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉

委員長：柴原 隆夫	副委員長：永山 均
委員：石名 国光	委員：深谷 弘
委員：佐川 京子	委員：大木 絵理

石川県白山市

【学校統合について】

白山市は、平成17年の合併直後に小中学校の再編を検討し、平成20年に合併特例債を活用して小・中学校を併設した白嶺小中学校として、とても魅力的な校舎を建設しました。現在は校舎建設から17年が経過し、児童・生徒数は3分の1程度まで減少しているとの説明が有りました。本市でも学校の統廃合を検討する際は、将来を見据えて適正な配置や規模を検討する必要性を感じさせられました。



石川県小松市

【赤ちゃんおむつ定期便・子育て政策について】

小松市では、生後3カ月から1歳の誕生日を迎える月までのお子さんが居る家庭を対象に、月2千円程度の紙おむつを無償提供する「赤ちゃんおむつ定期便」を実施している。この事業の特徴は、おむつを提供するだけの事業ではなく、子育て経験者が子育ての悩み等の相談に応じ、見守りチェックシートの作成や、虐待の監視までを一体的に実施していることでした。その他、様々な子育て政策を実施しており、本市においても大変参考になるものでした。



建設水道 常任委員会

所管事務調査の一環として11月4日から6日まで、広島県竹原市、岡山県矢掛町及び愛知県刈谷市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉

委員長：水野谷正則	副委員長：戸倉 宏一
委員：高畠 裕	委員：筒井 孝充

広島県竹原市

【「歴史的資源(歴史的町並み)を活かしたまちづくりについて」にぎわいと共に調和のとれた町並みを形成】

江戸時代に製塩業や酒造業で栄えた旧町並みが重要伝統的建造物群保存地区として国の指定を受け、保存と活用の基本構想のもと、「歴史的資源を活かしたまちづくり」に取り組んでいます。にぎわいと共に調和のとれた伝統的な町並みを形成しており本市のまちづくりにも参考になりました。

岡山県矢掛町

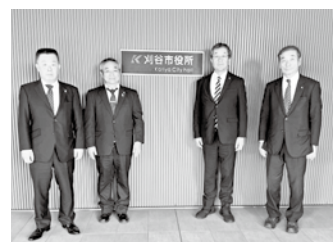
【「矢掛町伝統的建造物保存地区保存活用計画について」歴史かおる文化のまちづくりへの取り組み】

歴史的な建造物の在り方や、古民家等の保存や修景、後世への継承を考えるうえで本市の施策にも参考になる事業でした。

愛知県刈谷市

【「刈谷駅北地区整備事業について」多彩な駅前の充実により、活気やにぎわいの創出】

駅前の一方通行化や電線類の地中化、歩道拡幅、イルミネーションや歩行者デッキでのイベントの開催など、ハード整備とソフト事業も展開しており、本市の駅周辺やまちなかにぎわいの創出を考える上で大変参考になりました。



一般質問

「儲かる観光ビジネス」という視点を観光行政に取り入れてはどうか

白河の魅力を引き出し「儲かる観光」の実現に向けて取組んでいく



佐川 京子 議員



充実が重要と考えるが市の考えを伺う。

A 民間事業者と行政が一体となり、互いに連携しながら観光を地域経済の大きな柱の一つとして育て、「儲かる観光」の実現に向けて取組んでいく。

Q 南湖の水の入った冬景色が見られて南湖の美しい四季を存分に楽しめるように、冬期間の水抜き・池干しをぜひ見直して欲しい。



冬の南湖公園

A 環境保全と観光の

両立に向け、池干しのあり方も含め、より効果的な水質改善策を調査、検討していく。

Q 各学校のいじめ防止のために夏休みを開催されている「仁のつどい」に、いじめ件数の多い中学1年生の参加も検討してはどうか。

A 「仁のつどい」は、生徒達自らがいじめ問題に向き合う力を育てることなどで、今後中学1年生の参加や内容の見直しも検討していく。

表郷天狗山の整備について

道路・トイレの利便性向上を検討する



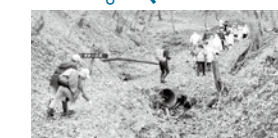
根本 建一 議員



えを伺う。

A 今年度より舗装の末端から約300mの未舗装区間について洗掘防止の工事を順次進めている。今後路面の状況を把握し、適切な維持・管理に努める。

Q 天狗山のトイレの整備について、訪れる方が快適に過ごせるよう整備が必要と思うが、市としての考えを伺う。



年間を通して多くの来場者がある天狗山

A ボランティアグループと意見交換を行い

登山者の利便性向上について検討する。

Q 兼業農家への支援について、表郷地域には、中小規模の兼業農家が多く存在するが、大規模農家に比べ支援や補助金が少ない状況にあるが、今後どのような支援を考えているのか。

A 地域の農業を将来にわたり持続可能なものとしていくことが重要である。多様な担い手を引き続き支援していくため、必要な支援の方向性について調査研究を進める。

大河ドラマの活用推進事業の継続

本市の魅力発信と誘客を促進



植村 美洋 議員



Q 白河市の不登校の児童生徒の数および割合はどのような実態か、伺う。

A 小学生57人(2・08%)、中学生70人(4・49%)となっている。

Q 不登校の児童生徒に対しては、どのような対策・指導をおこなっているか。

A 本人や保護者の状況を適切に把握し、さまざまな形で学習や体験活動の機会を確保し、心に寄り添った支援をしている。

Q 特別支援教育支援員の配置要望は何かあり、何名が配置されたのか。

A 令和7年度は、87名の要望があり、51名が配置されている。

Q NHK大河ドラマの活用推進事業の効果はどのようなものであったか。

A 各種メディアに取り上げられ、小峰城や南湖公園の観光客の増加につながった。

Q 大河ドラマ効果を一過性に終わらせることなく、次につなげる必要があるのではないか。

A 今後も演劇「おらほの殿さん」の公演、観光誘客を目的に、バスツアー、「ゆかりの地との連携」など、地域の活性化につながる事業を検討していく。



さだのぶくん

体験型放課後子ども教室の拡充を望む

コーディネーターの育成と発掘をしていく



緑川 摂生 議員



Q 現在、釜子小で行われている放課後子ども教室の目的と内容について伺う。

A 地域と連携し様々な体験や学習活動を行うことで、子どもたちの社会性、創造性等、豊かな人間性を育むとともに児童と地域住民との交流によるコミュニティの活性化を図ることが目的である。内容は、トチの実を使った笛づくりや、ペットボトルを利用したオカリナ作成、大正琴や和太鼓の演奏体験、ギターやチェロの音楽鑑賞、読み聞かせ、お話し会老人会による昔遊び等で、多くの子どもたちが参加し、元気に活動している。

Q 学校の授業では味わえない「本物」を体験できる素晴らしい事業である。全小学校に拡充してもらいたいが、課題があるのでは。

A 運営全体を取り仕切るコーディネーターの発掘と育成が重要である。子どもたちの学びや遊びに精通し、学校や地域とのつながりを持つ適任者が見つからない。教育委員会や地域団体と連携し、新たなコーディネーターを発掘していく。



農産品生産コスト低減のための支援について

持続可能な農業の実現に向け施策を推進する



永山 均 議員



Q 農業を持続可能な職業とするためには、高騰する肥料や農業機械などの生産資材購入費の削減及び生産性向上など、農産品生産のコスト低減を図る必要があると思われるが、農業者への支援について市の考えを伺う。

A 今後も、持続可能な農業の実現に向け、必要な施策を着実に推進していく。

Q 熊による人身被害が多発したことから、緊急統獵が制度化されたが、対応マニュアルの策定状況について伺う。

A 関係機関、さらには、庁内各課との調整を行いながらマニュアルの策定に取り組んでいる。

Q 主要地方道矢吹天栄線、日和田工区道路改良工事の事業内容と現在の進捗状況、及び事業の全体的な工期の予定について伺う。

A 令和3年度より県において事業に着手しており、現在まで、詳細設計、用地測量及び地質調査が概ね完了している。本工区の早期完成に向け、市としても支援していく。



複式学級が存在、予測される小学校の今後について

学校のあり方を考える検討委員会を設置する



遠藤 公彦 議員



Q 「望ましい適正化基準を満たさない小規模の学校」については今後、どのような検討を進めて行くのか伺う。

A 複式学級が既に存在している五箇小学校、小田川小学校、小野田小学校と今後、複式学級が予測される

関辺小学校で懇談会を開催し、学校の現状や課題について情報の共有を図るとともに、小田川小学校、小野田小学校、関辺小学校においては、学校のあり方を考える検討委員会を設置する。

Q 関係人口の重要性を市はどのように認識しているのか伺う。

A 地域の活力を維持していくうえで大きな力になると考えている。

Q 移住定住につなげるために、本市独自のファンクラブや応援団などの創設について市の見解を伺う。

A 創設については、地域と関係人口とのつながりを深める手段の一つとなることから、国が制度設計を進めている「ふるさと住民登録制度」の動向や、他の自治体の先進事例なども参考に検討する。



複式学級

本市の熊の目撃件数は

令和7年度は現在10件



室井 伸一 議員



保護者がすぐに迎えに来られない場合には、学校で待機させ、保護者への引き渡しを確実に行うようにする。



熊の注意看板

Q 学校付近で目撃情報や出没情報があった場合の対応について伺う。
A 各学校で野生動物（クマ等） 出没時対応マニュアルを作成したところである。この対応マニュアルにより、クマの目撃や出没があった場合には、警察に通報をするとともに、保護者へ一斉メールを行うほか、市教育委員会や市農林整備課など関係機関に連絡を行い、危険が及ぶ場合には、保護者には送迎を、警察には通学路のパトロールを依頼するようにしている。また、保護者がすぐに迎えに来られない場合には、学校で待機させ、保護者への引き渡しを確実にを行うようにする。

Q 過去3年間の熊の目撃情報数について伺う。
A 令和4年度7件、5年度3件、6年度26件となっている。

Q 猟友会のメンバー数と平均年齢及び最高齢者の年齢について伺う。
A 猟友会白河支部の市内在住の登録者は60名となっており、平均年齢は約67歳で最高齢者は95歳となっている。

下水道施設の老朽化及び地震対策について

先進的な事例も参考にしながら効率的に進めていく



水野谷正則 議員



Q 公立幼稚園・保育園における園児の運動能力低下対策について伺う。
A 子どもたちの基礎的な運動能力の低下が日常生活にも影響していることを危惧しており、音楽やリズムに合わせて全身や手先を使った遊びや、身体だけでなく脳と心に刺激を与える動きを取り入れた体操も行っている。健やかに成長できるように、運動能力を育んでいく。

Q 定住促進の支援策と実績について伺う。
A 市内へ移住する住宅取得者に費用の一部を補助している。（R5～7年11月現在134件）・行政分譲地を購入し住宅建築者にも助成金を交付している。※中学生以下の子どもを扶養している場合、助成単価を引上げて支援している。（R6～7年11月現在3区画）・子育て世帯や新婚世帯、県外からの移住者等を対象とした空き家の改修費用等の一部も補助している。（R6～7年11月現在9件）引き続き、定住促進に努める。

Q 下水道施設の老朽化対策及び地震対策について伺う。
A 長期的な視点で老朽化状況を予測し、最適管理するストックマネジメント計画及び上下水道耐震化計画をもとに対策を進めていく。



「地域計画」1年目の現状と課題について

地域農業の実態に応じて完成度を高めていく



戸倉 宏一 議員



Q 地域計画策定後の進捗状況について伺う。
A 計画は一度策定して終わりではなく、実態に応じて継続的に見直し、完成度を高めていく。各関係機関と連携し、地域の実態に即した内容となるよう取り組んでいく。

Q 高齢者支援について、一人暮らしの終活支援策について伺う。
A 10月から「白河市わたしの終活登録事業」を開始した。これは緊急連絡先や身元保証人などの情報に加え、エンディングノートである「未来ノート」や医療に関する「リビングウィル」の保管場所、葬儀の事前契約などの情報を市に登録し、緊急時などに指定された親族や消防、警察、病院からの求めに応じ情報を開示するものであり、終末期における医療や葬儀に自分の意思が尊重される。

Q 高齢運転者の現状と支援について伺う。
A 過去3年間の高齢者65歳以上の事故件数は令和4年26件、令和5年25件、令和6年51件となっている。「サポートカー」の試乗会や、地域の高齢者サロンにおける啓発活動を通して、交通安全意識の向上に取り組んでいる。



宅地の擁壁について市の対応は？

パトロール監視を今後対応予定



大竹 功一 議員



Q 9月30日、東京都杉並区の住宅地で、老朽化した擁壁が崩壊し、周辺の宅地に土砂が流出した。市内にも同時期に造成された擁壁が存在するが、それらは安全なのか耐震診断への補助対応を検討しては。

A 擁壁問題については、

国より監視パトロールするよう指示があり、今後対応する予定である。また、耐震診断等補助対応については、国及び他自治体の対応を参考に検討していく。

Q 10月からスタートした「白河市わたしの終活登録事業」は、私がこれまで質問してきた「一人暮らし高齢者の悩みや困りごと」についての支援事業だと聞いたが、内容について伺う。

A 登録項目には、緊急連絡先・葬儀や遺品整理に関するもののほか、「未来ノート」や「リビングウィル」があり、未来ノートは医療や介護、財産に関することなどを記載し、リビングウィルは医療希望のうち、人工呼吸器装置、経管栄養実施など延命措置の希望などを記載できるようにしている。今後は民生委員など

にも協力をいただき、市民への周知を図りたい。



スポーツ施設の総合的な改修・利活用の見通しと複合化

他の公共施設との調整・環境整備に取り組む



吉見 優一郎 議員



Q 合併20年を迎えた本市の今後の市政運営について伺う。

A 人口減少を踏まえ、市民の幸福実感を高める「スマートシユリンク」の考え方を取り入れ、Aーやロボットなどの「新しい産業」の取り組みへの支援とともに、生産年齢人口の確保や、引き続き少子化対策にも注力していく。歴史や文化、自然、産業、スポーツと白河らしくバランスの取れたまちづくりをしていく。

Q 総合運動公園・武道館の今後の総合的な改修・利活用の見通しと複合化について伺う。



国体記念体育館

A 他の公共施設との調整を図り、財源確保に努め、一体的な改修計画の検討を進め、環境整備に取り組み、指定管理者と連携してイベントや大会の誘致など多目的な利活用を図っていく。

Q 都市のデジタルツイン構築を通じた地域オペレーションの展開について伺う。

A 防災や環境保全、交通、インフラ管理、市民の見守りといった将来のまちづくりに必要なシステム基盤になるものと考えており、専門知識のある人材の確保や初期投資・維持管理費用などの課題も含め、先進地事例や費用対効果などを調査研究していく。

東風の台運動公園駐車場、トイレについて伺う

思いやりスペースの確保、洋式化トイレに適時対応する



佐川 琴次 議員



Q きつねうち温泉健康館、東文化センター等でイベントが開催されるたびに駐車場が満車になり、利用者から苦情が寄せられている。隣の山を崩してはとの声もある。歩行が困難な方に対して、思いやりスペースを確保することはできないか

市の考えを伺う。

A これまでも東風の台運動公園内の各施設で調整してきたところだが、今後混雑が想定されるイベントの際には、事前に主催者側と乗り合わせで来場することの周知を徹底させるとともに、誘導スタッフを配置し、隣接する駐車場の案内をするなど混雑解消に努める。なお、歩行が困難な方などに、会場近くに思いやり駐車スペースの確保を検討する。

Q 東風の台運動公園にある屋外トイレは、現在和式が多い状況であるが、洋式トイレに取り替える計画はあるのか伺う。

A 多目的グラウンド南側駐車場及びプールの奥に設置されているトイレについては、令和9年度以降洋式化への建て替えを予定している。また、テニスコート南側のトイレ洋式化についても、適時対応する。



こどもの健診、待ち時間が苦痛にならないような環境改善を!

絵本の置き方などを工夫し、環境を整えていく



大木 絵理 議員



Q 本市独自のこどもの権利条例を制定することに対する市の考えは?

A 本市においてはこどもの権利啓発活動を強化していく。条例については今後事業を進める中で検討する。

Q こども広聴「こえぼす」の周知方法は、こどもの成長や発達に合わせた工夫をするべきではないか?

A 次回の実施に向けて検討する。

Q 「市長への手紙」の公表の実施と名称の見直しを行うべきだと思う

が市の考えは?

A 「こえぼす」の状況も参考にし、公表を検討する。名称を含め、事業の検証を進める。



Q こどもの健康診査、パイプ椅子で待ち時間を過ごすのは大変である。待ち時間の環境改善を求める。

A 複合施設移転後は椅子に座らず待つようになる。今後、絵本の置き方を子どもの目線に合わせるなど工夫する。

Q 要支援者における福祉避難所への受け入れ方法は?

A 一次避難所での生活が難しい方のみ福祉避難所へ受け入れられる。

南湖公園の桜の保全と次世代への継承は

恒久的な保全体制の構築を定める



高畠 裕 議員



Q 国の行財政対策を踏まえた市の認識と今後の行財政運営について伺う。

A 重点支援地方支援金は制限もあり、どう使ったら有効かを十分に検討する。

また、時代の潮流を的確に把握し、市の産業振興の強化を図り、安定した行財政運営に努めていく。

Q 南湖の桜の老朽化の実態と延命、更新に向けた中長期ビジョンについて伺う。

A 1303本の桜は7割が樹齢50年以上で老朽化し、多くの樹勢が衰えており「南湖公園保存活用計画」を策定している。文化庁や樹木医をはじめ専門家と交え、管理や植え替えで恒久的な保全体制の構築を定め、歴史的価値を繋いでいく。



南湖の老朽化した桜の木

Q 市職員の人材育成、意識改革、ハラスメント防止対策について伺う。

A スキルアップ研修、行政課題研修の実施により人材育成をし、職員の業務改善の取り組み、提案制度にて昇給や昇格等で意識改革を反映している。

また市のハラスメント防止要綱に基づき取り組んでおり、今後も働きやすい組織風土醸成に取り組んでいく。

国の学校給食無償化方針にどう対応するのか

具体的内容が示された後、対応を考えていく



深谷 弘 議員



Q 国が来年度から全国で学校給食無償化を実施する方針との報道がなされているが、具体的にはどのような内容か。

A 新聞報道では、11月7日3党（自民党、日本維新の会、公明党）の実務者会合で具体的な制度設計の議論を開始。公立小学校の給食無償化を保護者の所得にかかわらず一律で国が支援する方向で検討しているとのこと。12月9日3党から全国知事会に、小学校給食費無償化の費用を国と都道府県が半分ずつ財政負担することが提案され、12日に3党で制度設計をまとめるという報道があった。現時点では具体的な内容は示されていない。

Q 市はどのように対応するのか。

A 現在国において協議中であり、具体的な内容が示された後に考えていく。

Q 国からの財政支援が見込まれる。この際、市として中学校まで給食費無償化を検討・提案するつもりはないか。

A これまでも答弁してきたとおり、学校給食無償化については、国の責任において実施すべきであると考えている。



地域活性化協議会との

議会報告会・意見交換会

市議会で初の試み 市民の皆さまとの議会報告会及び意見交換会を開催

今回は市内で幅広い分野からのメンバーで構成される白河、表郷、大信、東地域の4つの地域活性化協議会の皆さまとの懇談会でした。

11月17日 白河地域活性化協議会、12月2日 表郷地域活性化協議会、12月3日 大信地域活性化協議会、12月4日 東地域活性化協議会の日程で開催し、各議員は基本2つの地域に参加しました。

議長挨拶、自己紹介ののち、議会の仕組みをわかりやすく説明し、令和7年9月定例議会の各常任委員会と決算審査特別委員会に付託された議案の説明と審査の結果を報告しました。

その後、地域活性化協議会の皆さまとの意見交換会を行い、多くの意見が出される中、その場で答弁できるものには答弁し、それ以外は持ち帰って検討することとしました。

出された意見の主なものは以下のとおりとなります。

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| ①「複合施設及び集会所等の空きスペースの活用について」 | ②「過疎対策について」 |
| ③「白河駅周辺の駐車場対策について」 | ④「議員定数の見直しについて」 |
| ⑤「空き家対策について」 | ⑥「きつねうち温泉の活用について」 |
| ⑦「農業対策について」 | ⑧「表郷地域学習塾の状況について」 |

多くのご意見をいただいたほか、アンケート調査を実施しました。市民の皆さまの生の声を聞けたことは議会にとっても大変貴重であり、今後も多くの団体や市民の皆さまとの意見交換会は必要であると認識しました。



白河地域



表郷地域



大信地域



東地域

白河市町内会連合会役員と市議会議員 (三役及び各委員会正副委員長)との

意見交換会

議 題

町内会の運営、その他市政全般に係る課題や問題について

令和7年12月23日、全員協議会室で開催し、意見交換を行いました。

石名議長及び矢内会長の挨拶の後、出席者全員が自己紹介をし、市政全般に係る課題や問題について意見交換を行いました。

委員より、人口減少により複式学級が見込まれる学校もあることから、こどもを増やす対策についてや、西郷村への移住者が多いことから、子育て支援施策などの違いについてが意見がありました。

また、福島県内の他市と比較した場合の白河市の議員定数についての問題提起などがあり積極的に意見交換が行われ、今後も町内会と議会が連携して課題解決に向け協力していくことを確認しました。



「白河市消防団出初式」(1月11日)に出席。消防団員の皆様の力強い雄姿に感銘。消防団員として活動している議員もおります。



「二十歳の集い」(1月11日)に来賓として出席。594名の門出を祝いました。



議員活動
スナップショット



3 月定例会の予定 正式には開会日に決定します。

● 時間：午前10時から ● 場所：本庁舎4階 議場

2月25日(水)	本会議【開会、会期決定、提案理由説明】
3月3日(火)	本会議【一般質問1日目、委員会付託(請願・陳情)】
3月4日(水)	本会議【一般質問2日目】
3月5日(木)	本会議【一般質問3日目】
3月6日(金)	本会議【総括質疑、委員会付託(議案)】
3月9日(月)	委員会【各常任委員会・付託案件の審査】
3月10日(火)	委員会【各常任委員会・付託案件の審査】
3月12日(木)	委員会【各常任委員会・付託案件の審査】
3月16日(月)	本会議【各常任委員長報告、質疑、討論、表決、閉会】

本会議はインターネット中継及び録画配信を行っています。

こちらのQRコードを読み込んでください。



勤労感謝の日訪問

11月18日に専念寺学園幼稚園児の代表6名が先生とともに来庁し、日ごろ市民のために働いていることに感謝の言葉とお手紙を届けてくださいました。また、園児自らが育てて収穫したお米や、一生懸命皮むきをした干し柿をいただきました。



小野田小学校傍聴

自分の目で見て感じる体験を 小学生が議会を傍聴

小野田小学校6年生13名が、12月9日に施設見学及び議会傍聴に訪れ、議場の中を見学し、一般質問を行う議員と市長の真剣なやりとりを一生懸命メモを取りながら傍聴しました。

白河市議会では未来を担う児童生徒の皆さんの議会見学を心よりお待ちしております。



議会報編集委員会

大木 絵理

永山 均

佐川 琴次

遠藤 公彦

戸倉 宏 副委員長

高富 裕 委員長

季節の移ろいの早さに年々歳驚きを感じ得ず、市民の皆様方も同感だとおっしゃる方も多いと思われます。さて今般、本市議会議員と各地域活性化協議会とで議会報告会、意見交換会を実施し、市内4地域より様々な意見をいただきました。今後寄せられましたご意見は議会内で議論されることになります。我々議会報編集委員会も、一方的に広報紙を出すだけでなく広く市民の皆様方に読んでいただき、ご意見をいただけるよう、なお一層努力してまいります。

副委員長 戸倉 宏一

編集後記